

洪水浸水想定区域が見直され、 浸水する範囲が拡大！

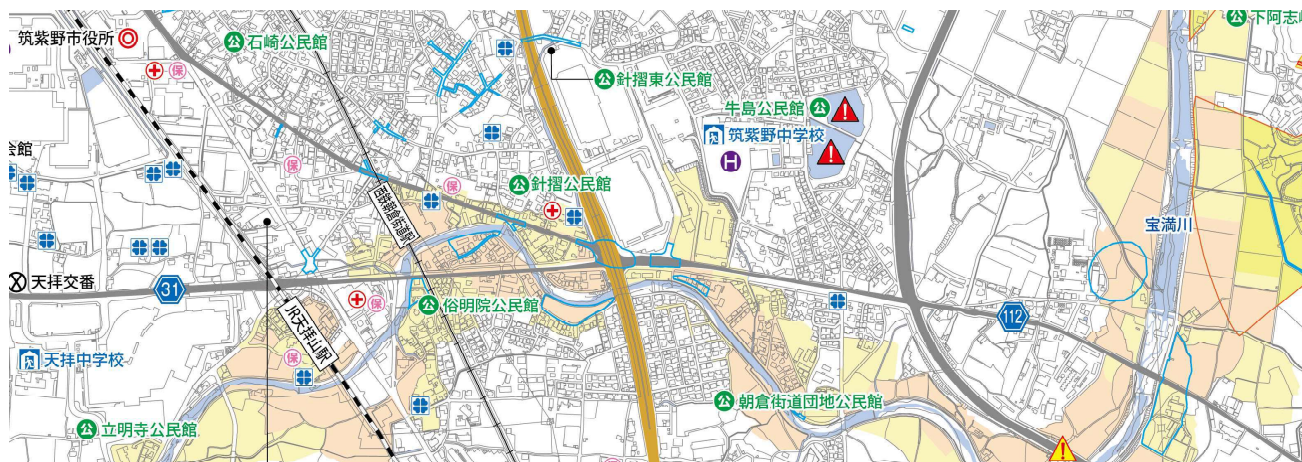
平成27年に水防法が改正され、洪水浸水想定区域は『河川整備で基本となる降雨を前提とした規模の区域(L1)』から『想定しうる最大規模の降雨による区域(L2)』に拡大しています。

洪水浸水想定区域 計画規模(L1)相当

2012(平成24)年3月作成のハザードマップにおいて、河川整備で基本となる降雨(計画規模の降雨)に相当する降雨に伴う洪水により、河川が氾濫した場合の状況をシミュレーションにより予測したものです。

○筑後川水系宝満川・山口川の24時間雨量415mm、御笠川水系御笠川の24時間雨量272mmの降雨に伴う洪水

注)高尾川地下河川は、2014(平成26)年8月に発生した降雨に伴う洪水により、河川が氾濫した場合の状況を予測した区域を表示

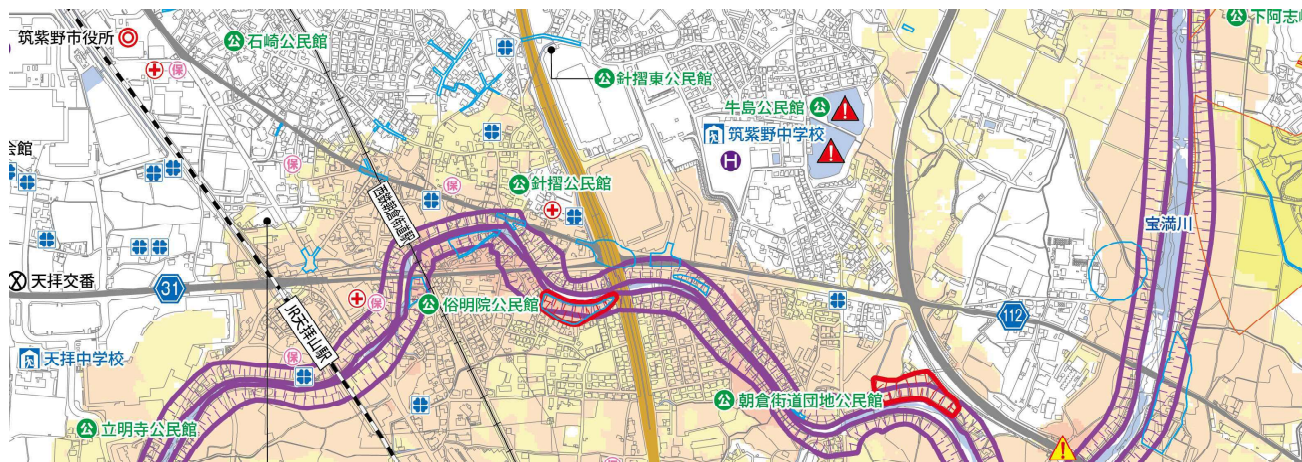


洪水浸水想定区域 想定最大規模(L2)

福岡県が公表した想定最大規模降雨による洪水浸水想定区域に基づき、想定しうる最大規模の降雨に伴う洪水により、河川が氾濫した場合の状況をシミュレーションにより予測したものです。

○筑後川水系宝満川・山口川の24時間雨量926mm(最大時間雨量105mm)、御笠川水系御笠川の24時間雨量966mm

(最大時間雨量130mm)の降雨に伴う洪水 浸水想定区域が拡大するとともに、家屋倒壊等氾濫想定区域(紫)が設定されています。



※なお、各種浸水想定区域のシミュレーションの実施にあたっては、シミュレーションの前提となる降雨を超えた場合の氾濫、水路閉塞等を考慮していませんので、地図に表示されていない区域においても浸水が発生する場合や、想定される水深が実際の浸水深と異なる場合があります。